

当月から発足の外国株専門投信の設定(190億円)も加わって429億円(前月282億円)と著増をみたため、月中元本純増額は125億円と前月(47億円)を大きく上回った。

運用面では、株価高騰を映じて利食い売りが高水準であったため、株式の組入れ比率が前月の57.1%から55.6%に低下した一方、公社債への運用が増大している(公社債組入れ比率、17.0→18.0%)。

3月の公社債投信元本増加額は97億円と前月(145億円)を大きく下回った。これは、解約が172億円と45年12月(183億円)以来の高水準となった反面、設定が予想分配率引下げ気運の台頭(注)などからいくぶん伸び悩んだためである。

(注) 予想分配率は5月設定分から7.2%(現行7.5%)に引下げ。

## 実体経済の動向

### ◇景気は底入れを示す動き

(生産—5か月連続増加)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は、2月+0.9%のあと、3月(速報)も+1.1%と引き続き増加を示し、11月以降5か月連続の増加となった(原計数の前年同月比は+5.0%)。3か月移動平均値の前月比でも、2月は+1.1%と昨年11月を底に続伸しており、このところ生産の回復傾向はかなりはっきりしてきた。

特殊分類別にみると、一般資本財が増加(+1.9%)、運搬機械、特殊産業機械の続伸および風水力機械、電動機、工作機械等の増加が主因)に転じたほか、前月かなりの減少を示した耐久消費財も大幅反動増(+4.6%、白黒およびカラーテレビ、二輪自動車、360~1,000cc乗用車が増加)となっている。また前月大きく増加した資本財輸送機械はわずかな伸びにとどまり、生産財も前月かなりの伸びを示したものの、3月は微増(+0.2%)となっている(鉄鋼、化学、石油・石炭が減少)。

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	46年				47年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
鉱 指 数	221.8	230.0	229.8	236.8	234.6	236.6	239.2
工 前期(月)比	-1.2	3.7	-0.1	3.0	1.3	-0.9	1.1
業 前年同期(月)比	2.9	4.1	4.3	5.5	5.2	6.1	5.0
投資財	-4.3	3.0	-0.6	6.2	4.3	0.6	1.0
資本財	-5.6	3.1	-0.8	7.3	5.3	0.3	1.5
同 (輸送機械を除く)	-8.8	1.1	-1.6	10.5	8.4	-1.5	1.9
輸送機械	3.0	7.5	1.3	—	-2.3	3.7	—
建設資材	-0.4	2.7	0.2	4.1	2.2	0.4	0.3
消費財	2.3	3.3	1.5	10.4	-0.3	-0.5	2.6
耐久消費財	1.2	8.1	3.8	3.0	0.5	-2.5	4.6
非耐久消費財	2.4	-0.3	-0.2	-0.3	-0.1	0.3	-0.5
生産財	-0.8	4.6	-0.5	1.9	0	2.1	0.2

(注) 1. 通産省調べ、47年3月および1~3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

一方、非耐久消費財は減少(-0.5%、繊維二次製品が統落)している。

(出荷——生産を上回る増勢持続)

鋳工業出荷は2月増加(+3.3%)のあと、3月(速報)も+1.5%とかなりの増勢を持続した(原計数の前年同月比は+5.3%)。3か月移動平均値の前月比でも2月は+1.5%と生産と同様12月来3か月連続の上昇を示しており、その増勢は生産のそれをかなり上回っている。

特殊分類別にみると、一般資本財がかなりの増加(+4.8%、農業用機械、電動機、土木建設・鋳山機械、運搬機械、工作機械、非鉄金属加工品の増加が中心)となったほか、資本財輸送機械(1,500~2,000cc 乗用車、中型を除くトラック全車種が上昇)、生産財(非鉄、パルプ・紙・紙加工品、はん用内燃機関の増加が中心)の出荷続伸が目だっている。また、建設資材も前月減少のあと反動増(+1.1%、建設用金属製品、陶磁器の増加が中心)を示した。反面、前月著増した耐久消費財は若干の反動減(-3.9%、カラーテレビ、360~1,000cc 乗用車の増勢持続にもかかわらず、エアコンディショナ、脱水洗たく機、1,000~1,500cc 乗用車が減少)となっている。

(製品在庫——3月は微増にとどまる)

製品在庫(季節調整済み、前月比)は、前月大幅減少(-1.1%)のあと、3月も微増(+0.3%)にとどまった(原計数の前年同月比+2.9%)。3か月移動平均値の前月比でも1月-0.1%のあと2月は横ばいとなっている。

特殊分類別にみると、耐久消費財が前月減少の反動(白黒およびカラーテレビ、50~125cc二輪自動車)に加えて、夏物家電(エアコンディショナ等)、360~1,000cc 乗用車の在庫積増しによりかなりの増加(+4.1%)となったほか、建設資材も増加(+2.7%、建設用金属製品、板ガラス等が中心)している。一方、資本財輸送機械(1,500~2,000cc 乗用車、軽四輪および大型トラックが減少)、一般資本財(-5.1%、農業用機械、工作機械の減少目だつ)では、前月に続いて大幅の減少となっている。また、生産財でも、鉄鋼、化学等を中心に微減(-0.3%)となった。

以上の動きから、3月の製品在庫率指数(速報)は104.7と前月に続いて低下を示した(1月110.7、2月105.9)。

鋳工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	46年				47年		
	4~6月		7~12月		1~3月		
	4月	6月	7月	10月	1月	2月	3月
鋳工業指数	215.5	220.8	219.7	229.5	223.4	230.8	234.3
前期(月)比	0.5	2.5	-0.5	4.5	-0.4	3.3	1.5
前年同期(月)比	4.9	4.7	4.6	7.0	5.9	9.9	5.3
投資財	-0.6	2.0	0.2	7.3	0.6	4.1	3.7
資本財	-1.0	1.9	0	9.1	0.8	5.1	4.8
同(輸送機械を除く)	-8.2	4.0	-2.7	12.8	8.9	0.1	4.8
輸送機械	13.4	-1.9	4.6	—	-10.8	14.2	—
建設資材	0.9	2.3	0.9	2.6	0.8	-0.2	1.1
消費財	3.3	1.6	-0.8	1.9	-2.0	3.8	-2.4
耐久消費財	7.8	5.0	-1.8	1.2	-8.8	11.0	-3.9
非耐久消費財	0.5	0.2	-0.2	1.7	1.4	-0.1	-1.6
生産財	-0.2	3.0	-0.4	3.2	-0.3	1.8	1.6

(注) 1. 通産省調べ、47年3月および1~3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鋳工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)				47年(期別)		
	6月		9月		12月		
	6月	9月	12月	3月	1月	2月	3月
鋳工業指数	238.7	238.8	245.3	245.2	247.2	244.5	245.2
前期(月)末比	0.3	0	2.7	0	0.8	-1.1	0.3
前年同期(月)末比	19.3	12.4	6.4	2.9	5.0	1.9	2.9
製品在庫率指数	109.4	105.7	109.4	104.7	110.7	105.9	104.7
投資財	8.7	-2.7	0.4	-3.9	0.5	-2.8	-1.7
資本財	13.9	-6.1	-1.9	-1.1	1.4	-6.4	-6.3
同(輸送機械を除く)	12.0	-2.5	-4.5	-10.4	0.6	-6.2	-5.1
輸送機械	25.0	-21.8	10.3	—	7.8	-4.7	—
建設資材	1.3	3.0	3.7	3.6	-1.2	2.1	2.7
消費財	-3.4	-3.7	4.2	3.7	2.5	-1.4	2.7
耐久消費財	-10.1	-13.2	5.8	8.8	7.3	-2.6	4.1
非耐久消費財	4.2	4.0	5.5	-4.1	-4.1	-0.3	0.2
生産財	-1.8	5.7	1.8	0.5	-0.6	1.4	-0.3

(注) 1. 通産省調べ、47年3月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

## (原材料在庫——3月も引き続き増加)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は、2月かなりの増加のあと、3月(速報)も、+0.3%の微増となった。3か月移動平均値の前月比でも10月-0.1%のあと、11月+0.2%、12月+0.3%、1月+0.5%、2月+0.4%と、このところわずかながら増勢を高めている。

特殊分類別にみると、輸入分が素原材料、製品原材料ともに減少したため、-1.1%の低下となった反面、国産分は製品原材料の続伸(+1.9%、金属製建具用鋼板、セメント、綿糸、毛糸等の増加が中心)から、2月と同じく+1.1%の増加となった。業種別には、窯業・土石、パルプ・紙、繊維等が2月に続いて増加しているほか、金属、化学等は2月減少のあと反動増となっている。一方、鉄鋼、非鉄、船舶等では反動減となった。この間、原材料在庫率指数は、在庫が上記のように増加した一方、消費が鉄鋼、化学、石油、パルプ・紙等を中心に-0.9%の減少となったため、93.3と2月低下のあと再び上昇した。

## 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)		47年(期別)	47年(月別)		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
在庫指数	188.7	189.7	192.0	189.2	191.4	192.0
前期(月)末比	-0.8	0.5	1.2	-0.3	1.2	0.3
国産分	0.1	0.7	1.4	-0.8	1.1	1.1
素原材料	-3.8	3.7	5.9	3.4	2.2	0.2
製品原材料	0.8	-0.9	1.3	-1.8	1.2	1.9
輸入分	-2.0	-0.1	1.7	1.9	0.8	-1.1
素原材料	-1.7	-0.6	1.5	2.2	0.6	-1.3
在庫率指数	91.9	92.7	93.3	93.0	92.2	93.3
国産分	85.0	85.8	86.8	86.0	85.0	86.8
素原材料	118.0	118.8	125.9	121.9	121.0	125.9
製品原材料	79.6	79.4	80.2	79.2	78.2	80.2
輸入分	112.1	114.2	112.4	112.6	113.0	112.4
素原材料	113.1	114.7	113.3	113.5	113.3	113.3

(注) 通産省調べ、47年3月は速報。

## (販売業者在庫——2月は反動減)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は、1月

## 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)			47年(月別)		
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
総合指数	188.4	192.0	186.0	186.0	199.0	196.7
前期(月)末比	0.5	1.9	-3.1	0.9	7.0	-1.2
素原材料	1.2	-3.4	-4.5	3.9	9.3	6.5
製品	0.5	2.1	-3.1	0.6	6.7	-1.4

(注) 通産省調べ、47年2月は速報。

+7.0%と大幅増のあとその反動もあって2月は-1.2%の減少となった。品目別にみると、民生用電気機器(-20.7%、テレビ、電気洗たく機等が低下)、自動車(-3.5%)が前月大幅増加の反動もあって減少したほか、鋼材(-2.2%)も引き続き減少している。一方増加となったのは、石油(+3.5%)、繊維原料・糸・織物(+3.6%)、非鉄(+0.4%)、洋紙(+0.3%)等であるが、このうち、非鉄、繊維原料の一部では、建値引上げ(銅)あるいは生産増(羊毛、綿花)に伴う積極的な在庫積増しもみられた。

(設備投資——機械、建設受注は期末要因もあってやや持直し)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、2月微増にとどまったあと、3月(速報)は+4.8%とかなり大幅な増加を示した。3か月移動平均値の前月比でも2月は+4.5%と昨年12月来の上昇が続いている。また、原計数の前年同月比でも1月以降プラスに転じている(1月+3.9%、2月+6.1%、3月+4.3%)。品目別にみると、トラクター、合成樹脂加工機械、風水力機械、運搬機械等が続伸しているほか、これまで減少が続いていた農業機械、電動機、工作機械等が増加している。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、前2か月減少(1月-7.7%、2月-10.8%)のあと3月は+41.0%と期末要因もあって大幅反動増となった(原計数の前年同月比、2月-23.3%、3月-10.0%)。3か月移動平均値の前月比でも、1月-1.7%のあと、2月は+5.8%と

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	46年		47年	47年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
民需	2,652	2,317	2,200	2,648	1,669	2,283
	(+11.2)	(-12.6)	(-5.1)	(-11.5)	(-37.0)	(+36.8)
同(船舶を除く)	2,095	1,678	1,786	1,702	1,517	2,139
	(+9.9)	(-19.9)	(+6.4)	(-7.7)	(-10.8)	(+41.0)
製造業	932	714	882	855	821	969
	(-12.3)	(-23.4)	(+23.4)	(+14.3)	(-4.1)	(+18.1)
非製造業	1,692	1,623	1,320	1,766	827	1,366
	(+29.6)	(-4.0)	(-18.7)	(-22.4)	(-53.2)	(+65.2)
同(船舶を除く)	1,156	997	912	854	699	1,182
	(+37.8)	(-13.8)	(-8.5)	(-23.2)	(-18.2)	(+69.1)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

持直しを示している。

3月の増加は、非製造業が前2ヵ月統落のあと、電力を中心に+69.1%と著増を示したことによる面が大きい。一方、製造業も2月に小反落のあと+18.1%と、かなりの増加を示している。受注業種別にみると、製造業では、鉄鋼(-6.3%)、機械(-1.9%)、紙・パルプ(-18.6%)等が減少した反面、食料品(+153.1%)、繊維(+65.5%)、自動車(+69.3%)、化学(+56.7%)等が大幅反動増を示し、石油(+35.6%)、造船(+20.3%)等も引き続き増加となっている。一方、非製造業では、主力の電力が前2ヵ月減少のあと大幅反動増(+201.0%)を示したほか、運輸(+95.9%)、鉱業(+16.4%)等も増加している。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、前月比)は、2月に3ヵ月ぶりの増加を示した(+3.0%)あと、3月(速報)は+20.1%と引き続き大幅な増加となった(原計数の前年同月比+9.5%)。なお、官公需は、前月大幅増(+37.1%)のあと-5.2%と反落しているが、原計数の前年同月比は+37.4%と引き続き高水準を保っている。

## ◇商品市況は上げ一服

4月にはいつてからの商品市況をみると、塩ビ、段ボール原紙、そ毛糸、ガソリン、セメントが強含みないし強保含いとなったものの、綿糸、スフ糸、砂糖、高圧ポリエチレン、硫酸が弱含み

となり、また、これまで値上がりが続けてきた鋼材が、騰勢一服ないし小幅訂正安を示したため、総じてみれば上げ一服商状となった。

これは、先高見越しによる間屋およびユーザーの在庫補充買いが4月にはいつてから一服状態となっていること、期待されていた春需が盛り上がりや欠いたこと、連休や梅雨入りを控えた模様ながめ気分の台頭などの事情が響いているものとみられる。

しかしながら、官公需は前年度からのずれ込みもあって高水準を続けており、民需についても、自動車、家電メーカー、一部鉄骨加工業者からの引合いが増加しているなど、一部では持直し気配も見受けられる。一方供給面では、不況カルテルや自主減産による効果が市況に徐々に浸透してきており(塩ビ、段ボール原紙、か性ソーダ)、需給の基調が底堅いことには変わりはないとみられる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……くず鉄が弱含みとなったほか、棒鋼、亜鉛鉄板が騰勢一服、山形鋼、鋼板が小幅訂正安を示すなど総じて中だるみ商状を呈した。

これは、相場が前月の急伸によりかなりの高値にもどったため一部に高値警戒感が台頭したこと、おおかたの品種で仲間相場と対ユーザー売り値とが逆ざやになっていること、メーカーの市況過熱防止措置(出荷の増量)が間屋筋に心理的影響を与えていること、ひも付き販価引上げ交渉がまだ決着をみていないこと、連休や梅雨入りなどによる荷動き鈍化が予想されることなどから、末端流通段階の在庫補充買いが一服状態となっているためである。しかしながら、需給の実勢をみると、不況カルテルを背景に生産が削減されていることに加え官公需が引き続き増加し、民需でも家電、自動車メーカー、一部鉄骨加工業者からの引合いが漸増するなど明るい材料を見受けられる。

繊維……天然・化学繊維系では、そ毛糸、生糸が強含みを続けたが、綿糸は生産、輸入の増加傾向から、またスフ糸は荷動き不振を主因にそれぞ

れ軟化した。

一方合繊糸では、減産強化や輸出向け過剰玉買上げ機関の設置を背景にメーカー筋が売り腰を強めており、市中には底固め気配が出ている。

非鉄金属……銅、鉛は、メーカー側が4月積み建値引上げの浸透を企図して安値引合いには応じない方針をとったものの、実需が本格的な回復に至っていないことから弱含みとなった。また、亜鉛は、亜鉛鉄板メーカーの減産継続から、すずは実需筋の買い手当て一巡からともに保合いで推移した。

石油……ガソリンは、3月央以降行楽関係の需要が出はじめたことからメーカー側が仕切り価格の引上げを図っているため強含みとなり、重油では、A重油が公害規制に伴うB・C重油からの転換需要が続いて強保合いとなった。

セメント……民間設備投資関連需要は依然停滞しているものの、官公需の前年度からのずれ込み分もあって相場は強保合い。

木材……春需の伸び悩みから、ユーザー、小売筋が当用買いに終始しているため内地材、外材ともに弱保合いで推移している。

化学品……合成樹脂では、塩ビが不況カルテルを背景とするメーカー筋の値上げ浸透を映じて反発したが、高圧ポリエチレン、ポリプロピレン等は依然軟弱地合いを改めていない。エチレンの不況カルテルが認可されたものの、生産基準量が現行の生産水準とほぼ同程度であることから市況持直しについて早急な効果は期待できないとの見方が強い。基礎薬品類では、か性ソーダが公害防止関連需要(廃液中和利用)の増加から強

含みとなったが、硫酸は肥料業界の需要低迷を主因に弱基調を持続した。

紙……洋紙は春需が伸び悩んでいることから保合いとどまったが、段ボール原紙はメーカー側の操短効果により強含みとなった。

砂糖……輸入菓子増加やくだものに押されて菓子業界の需要が低迷しているうえ、海外相場が軟化したことを映じて統落した。

#### (卸売物価——4月も上昇)

卸売物価は、2月、3月に続き、4月も前月比+0.3%と上昇した。類別にみると、食料品が下落したものの、非鉄金属が海外市況の堅調を映じて大きく上昇したのをはじめ、機械器具、織維品、鉄鋼、石油・石炭・同製品、紙・パルプ・同製品等ほぼ全品目が上昇を示した。産業別では、工業製品が+0.3%と昨年12月以来5ヵ月連騰となったが、非工業製品は農林水産物の下落を主因に-0.3%と3ヵ月ぶりに反落した。

#### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

ウエ イト	前年度比 上 昇 率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)							
	45年度 平 均	46年度 平 均	47 年			47 年 4 月				
			2 月	3 月	4 月	上 旬	中 旬	下 旬		
総 平 均	100.0	+ 2.4 - 0.8	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.2	保 合	- 0.1		
食 料 品	15.7	+ 2.4 + 3.2	+ 0.6	+ 1.1	- 0.6	- 0.3	- 0.3	- 0.4		
織 維 品	10.7	+ 5.2 - 1.8	+ 1.0	保 合	+ 0.6	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1		
鉄 鋼	9.7	+ 2.2 - 7.9	- 0.1	+ 1.4	+ 0.5	+ 0.2	保 合	- 0.1		
非 鉄 金 属	4.4	- 7.6 - 11.6	+ 1.4	+ 1.1	+ 1.8	+ 1.7	- 0.1	保 合		
金 属 製 品	3.8	+ 4.2 - 0.5	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.3	- 0.1		
機 械 器 具	22.1	+ 1.5 + 0.1	+ 0.1	- 0.1	+ 0.4	+ 0.3	保 合	- 0.1		
石油・石炭・同製品	5.6	+ 4.5 + 9.8	- 0.3	- 0.5	+ 0.5	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.4		
木 材 ・ 同 製 品	6.2	+ 3.4 - 4.7	- 0.2	- 0.6	+ 0.3	保 合	- 0.2	保 合		
窯 業 製 品	3.0	+ 4.8 + 1.9	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.2	保 合	+ 0.1		
化 学 品	7.6	+ 0.5 - 0.2	- 0.5	- 0.1	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	保 合		
紙・パルプ・同製品	3.4	+ 6.7 - 1.2	- 0.3	保 合	+ 0.4	+ 0.5	保 合	- 0.2		
雑 品 目	7.9	+ 3.4 + 0.4	- 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	- 0.1	+ 0.1		
工 業 製 品	82.0	+ 3.0 - 0.8	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1		
うち大企業性	59.6	+ 1.5 - 1.2	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3					
中小企業性	21.0	+ 6.5 + 0.2	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.5					
非工業製品	18.0	- 0.1 - 0.8	+ 0.3	+ 0.8	- 0.3	- 0.2	- 0.3	- 0.3		

(注) 日本銀行調べ。

## (工業製品生産者物価——3月は上昇)

工業製品生産者物価は、2月に前月比+0.1%と強含みのあと、3月も同+0.2%と上昇した(前年同月比+0.1%)。これは、合成繊維、食料品が下落したものの、普通鋼鋼材、天然および化学繊維、非鉄金属、窯業製品等がそれぞれかなり上昇したためである。

## 工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ ト	前 年 比 率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		45 年 平	46 年 平	47 年		
				1 月	2 月	3 月
総 平 均	100.0	+2.5	-0.9	+0.2	+0.1	+0.2
食 料 品	12.6	+4.3	+2.9	+0.3	-0.3	-0.3
天然および化学繊維	3.0	+6.7	-6.6	+2.0	+3.4	+0.8
合 成 繊 維	1.4	-6.8	-15.4	-1.6	-1.8	-0.9
織 物	2.8	+1.5	-3.4	+0.2	+0.1	+0.6
繊 維 二 次 製 品	3.2	+7.4	+2.9	-0.4	+0.1	+0.1
普 通 鋼 鋼 材	7.2	+0.8	-7.8	+3.2	+1.2	+1.1
特 殊 鋼 鋼 材 其 他	2.5	+5.5	-0.3	-0.1	+0.1	+0.3
非 鉄 金 属	4.4	-6.5	-8.7	+0.2	+0.9	+0.6
金 属 製 品	4.6	+3.1	-1.0	保合	-0.1	+0.5
一 般 機 械	10.4	+3.3	+1.2	+0.5	保合	+0.1
輸 送 機 械	8.3	+0.2	+0.4	保合	+0.1	保合
電 気 機 械 器 具	9.1	+1.1	-2.1	-0.5	-0.3	-0.2
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	+4.6	+9.3	-0.9	-0.1	-0.2
木 材 ・ 同 製 品	5.0	+6.3	-3.3	保合	+0.5	-0.2
窯 業 製 品	3.4	+2.9	+1.9	保合	保合	+0.6
化 学 品	7.8	-0.2	-0.7	-0.3	-0.3	-0.1
紙 ・ パルプ ・ 同 製 品	4.5	+6.0	-0.8	-0.4	-0.5	-0.1
雑 品 目	6.1	+3.2	+0.8	保合	-0.1	+0.1

(注) 日本銀行調べ。

## (消費者物価——4月(東京)は続騰)

4月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で前月比+1.0%と続騰した(前年同月比+4.8%)。これは、①雑費が、私立学校授業料や文房具の値上がりから+1.4%と大きく上昇したこと、②食料が野菜、くだもの、肉類の値上りを主因に+1.2%と上昇したこと、また③住居費が、家賃、水道工事費、大工手間代、左官手間代の値上がりから+1.0%の上昇を示したこと、などが響いたためである。一方被服は、はきもの、洗たく代が

値上がりしたが、背広、スカート、替ズボン等の衣料が値下がりしたため-0.1%と微落した。なお、季節商品を除く総合でも前月比+0.6%と続騰した(前年同月比+5.2%)。

3月の全国消費者物価は、総合で前月比+0.9%と続騰した(前年同月比+5.0%)。これは、食料が、くだもの、野菜、乳卵の値上がりから前月比+1.7%とかなりの上昇を示したことが主因で、このほか、被服(前月比+0.5%)、雑費(同+0.4%)も値上がりした。なお、季節商品を除く総合でも同+0.4%の上昇となった(前年同月比+5.4%)。特殊分類別では、農水産物が、生鮮食料品の上昇を映じて前月比+3.5%と値上がりしたが、工業製品、サービスはそれぞれ+0.3%および+0.4%と微騰にとどまった。

46年度の全国消費者物価は、総合で前年度比+5.7%の上昇を示した。これは44年度(+6.4%)、45年度(+7.3%)の上昇率を下回るものの、季節商品を除く総合でみると+6.2%とほぼ45年度(+6.3%)並みの上昇となっている。

## (輸出入物価——ともに続落)

3月の輸出入物価は、前月比-0.2%と続落した。これは、非金属鉱物製品(陶磁器、モザイクタイル)が米国向け高値成約を主因に続騰したものの、食料品(まぐろかん詰、冷凍まぐろ)が円高をカバーしきれないことから下落したこと、機械器具(写真機、拡声機器)も販売競争の激化から値下がりしたことなどが響いたためである。

3月の輸入物価は、前月比-0.1%と続落した。これは、鉱物性燃料(原油、原料用炭)が円高やプレート安から下落したこと、繊維品(原毛)も産地安から反落したことなどを映じたためである。この間、金属(銅鉱、銅地金、すず地金)は海外高から上昇した。

この結果、3月の交易条件指数(105.5、40年=100)は前月好転(前々月比+0.2ポイント)のあとわずかながら再び悪化した(前月比-0.1ポイント)。

## 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近 月の 前年 同月 比	
		45年度 平均	46年度 平均	47年				
				2月	3月	4月		
消 費 者 物 価	総 合 (季節商品を除く)	100.0	+6.9	+6.0	+0.5	+0.6	+1.0	+4.8
		91.3	+6.3	+6.6	+0.5	+0.5	+0.6	+5.2
	食 料	40.3	+7.4	+5.9	保 合	+1.2	+1.2	+5.1
	住 居	11.8	+5.5	+3.7	+0.2	+0.2	+1.0	+3.9
	光 熱	3.7	+1.1	+1.3	-0.1	-0.1	保 合	+0.2
	被 服	12.4	+11.0	+8.5	-1.3	+0.1	-0.1	+5.4
	雑 費	31.8	+5.7	+6.7	+1.8	+0.3	+1.4	+5.0
	特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.6	+6.0	+1.6	-0.1	+2.5	+0.5
		工 業 製 品	43.6	+8.0	+5.5	-0.4	+0.3	+4.1
		うち 大企業製品	19.8	-	+2.6	+0.1	+0.2	+1.8
		中小企業製品	23.8	-	+7.9	-0.7	+0.3	+5.9
		サ ー ビ ス	37.0	+5.9	+7.8	+1.6	+0.4	+8.6
	全 国	総 合 (季節商品を除く)	100.0	+7.3	+5.7	+0.4	+0.9	+5.0
		91.0	+6.3	+6.2	+0.4	+0.4	+5.4	
上 の 5 都 府 以 上	総 合 (季節商品を除く)	100.0	+7.4	+5.8	+0.5	+0.8	+5.1	
		91.0	+6.4	+6.3	+0.4	+0.5	+5.5	
輸 入 物 価	輸 出		+3.5	-0.1	-0.2	-0.2	-2.1	
	輸 入		+2.4	-1.9	-0.4	-0.1	-6.8	
輸 入 物 価	交 易 条 件		+1.1	+1.9	+0.2	-0.1	+5.0	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は日本銀行調べ。  
2. 47年4月は速報。

123百万ドル)と既往最大の流出超となった。

これは、外国資本が対日証券投資の流入を主因に前月に続き流入超(121百万ドル、前月同56百万ドル)となったにもかかわらず、本邦資本が延払信用供与の大幅増などから過去最大の流出超(458百万ドル、前月同179百万ドル)となったためである。

金融勘定では、現地貸付の増加等にもかかわらず、海外短資取入れ、外銀借入れの増加等を反映して、為銀ポジションは60百万ドルの小幅悪化となり、月末の負債超過額は1,734百万ドルとなった。この間、外貨準備高は、月中185百万ドル増加し、月末には16,663百万ドルとなった。

3月の輸出は、前年同月比+19.2%と前年10月以来5か月ぶりに20%を下回る伸びと

## ◇国際収支の黒字幅は縮小

3月の国際収支は、総合収支で118百万ドルの黒字(前月661百万ドルの黒字)と黒字幅を縮小した。これは、貿易収支が黒字幅を拡大した(911百万ドル、前月627百万ドル)にもかかわらず、長期資本収支が延払信用供与増などから流出超幅を拡大(337百万ドル、前月123百万ドル)したうえ、短期資本収支等が輸出前受金規制の復活を反映して流出超に転じたためである。

3月の貿易収支を季節調整後でみると、輸入が航空機の入着集中もあって大幅な伸びをみたものの、輸出も船舶引渡しの高水準などからかなりの伸びとなったため、765百万ドルの大幅黒字(前月同761百万ドル)となった。

長期資本収支は、337百万ドルの流出超(前月

なったが、これは前年3月の著増が響いたためであり、季節調整後前月比では+6.0%の大幅増となった。品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼、食料品等は伸び悩んだものの、機械機器は、自動車、オートバイ、テープレコーダー、船舶を中心として引き続き高い伸びを示した。

地域別では、カナダ、共産圏、中近東、アフリカ向けの伸びが目だって高いほか、米国、西歐向けもかなりの伸びを示した。反面、東南アジア向けは一段と伸び率が低下した。

先行指標である輸出信用状接受高は、3月に前年同月比+6.4%と伸び率が大幅に低下したあと、4月には同+3.3%とさらに伸び率を低めた。もっとも、これは前年の水準が、米国鉄鋼ストを控えた備蓄、港湾スト見越しのかけ込みなどから異常

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	46 年		47 年	47 年			46 3 年 月
	7～9月	10～12月	1～3月	1 月	2 月	3 月	
経 常 収 支	2,127	2,029	1,015	△ 18	393	640	453
貿易 収 支	2,516	2,535	1,723	185	627	911	702
輸 出	6,261	6,692	6,040	1,540	2,007	2,493	2,091
輸 入	3,745	4,157	4,317	1,355	1,380	1,582	1,389
貿易外 収 支	△ 354	△ 420	△ 560	△ 191	△ 199	△ 170	△ 191
移 転 収 支	△ 35	△ 86	△ 148	△ 12	△ 35	△ 101	△ 58
長期資本 収 支	△ 304	△ 840	△ 741	△ 281	△ 123	△ 337	△ 101
本邦資本	△ 507	△ 716	△ 818	△ 181	△ 179	△ 458	△ 324
外国資本	203	△ 124	77	△ 100	56	121	223
基礎的 収 支	1,823 ( 1,540)	1,189 ( 866)	274 ( 808)	△ 299 ( 247)	270 ( 404)	303 ( 157)	351 ( 233)
短期資本 収 支	1,991	211	237	40	79	118	101
誤差脱漏	246	△ 680	464	455	312	△ 303	76
総 合 収 支	4,060	720	975	196	661	118	529
金 融 勘 定 備 減 他	4,060	720	975	196	661	118	529
外 増 ぞ の	5,785	1,851	1,428	722	521	185	590
	△ 1,725	△ 1,131	△ 293	△ 366	140	△ 67	△ 61
外 貨 準 備 高	13,384	15,235	16,663	15,957	16,478	16,663	5,458
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 348	△ 1,471	△ 1,734	△ 1,848	△ 1,674	△ 1,734	866

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 収 支	輸 出	輸 入	信 用 状	認 証	承 認
46 年 7 ～ 9 月	2,012 (+ 3.9)	1,267 (- 3.6)	745	2,031 (+ 3.5)	1,572 (- 4.9)	1,678 (- 0.2)	2,145 (+ 2.2)	1,479 (- 4.3)
10 ～ 12 月	2,091 (+ 3.9)	1,353 (+ 6.8)	738	2,115 (+ 4.1)	1,701 (+ 8.2)	1,683 (+ 0.2)	2,205 (+ 2.8)	1,619 (+ 9.5)
47 年 1 ～ 3 月	2,200 (+ 5.2)	1,448 (+ 7.0)	752	2,249 (+ 6.3)	1,803 (+ 6.0)	1,723 (+ 2.4)	2,397 (+ 8.7)	1,734 (+ 7.1)
46 年 12 月	2,127 (+ 1.0)	1,335 (- 5.4)	792	2,142 (+ 0.7)	1,724 (- 0.9)	1,713 ( 0)	2,226 (- 0.3)	1,679 (+ 7.7)
47 年 1 月	2,194 (+ 3.1)	1,463 (+ 9.6)	731	2,233 (+ 4.3)	1,750 (+ 1.5)	1,730 (+ 1.0)	2,395 (+ 7.6)	1,781 (+ 6.1)
2 月	2,139 (- 2.5)	1,378 (- 5.8)	761	2,185 (- 2.2)	1,740 (- 0.6)	1,700 (- 1.7)	2,439 (+ 1.8)	1,704 (- 4.3)
3 月	2,267 (+ 6.0)	1,502 (+ 9.0)	765	2,329 (+ 6.6)	1,921 (+ 10.4)	1,738 (+ 2.2)	2,358 (- 3.3)	1,717 (+ 0.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。  
 3. 季節調整はセンサス局法による。



に高かったことが響いており、季節調整後前月比では、3月+2.2%のあと、4月も+1.8%となお増勢を持続している。

品目別にみると、鉄鋼、化学品、雑貨、繊維の不振に対し、自動車、電気機械が堅調持続を示し、地域別には、アジア、米国向けの伸び悩みに

## 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	46年		47年		47年	
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	
食料品	194	187	138	45	56	
	(-2)	(+13)	(-5)	(-4)	(+2)	
魚介類	101	93	89	28	38	
	(+7)	(-5)	(+25)	(+20)	(+36)	
繊維・同製品	716	790	609	221	250	
	(+15)	(+11)	(+10)	(+10)	(+10)	
合繊糸	110	110	81	29	33	
	(+49)	(+28)	(+2)	(+6)	(+0)	
綿織物	51	58	46	17	20	
	(+7)	(+6)	(+21)	(+19)	(+21)	
合繊織物	188	223	165	61	69	
	(+14)	(+16)	(+11)	(+9)	(+11)	
化学製品	383	391	394	134	157	
	(+25)	(+13)	(+16)	(+19)	(+15)	
非金属鉱物製品	102	109	104	36	41	
	(+7)	(+13)	(+26)	(+34)	(+24)	
金属・同製品	1,227	1,224	1,029	347	411	
	(+22)	(+18)	(+7)	(+14)	(-4)	
鉄鋼	959	934	779	260	306	
	(+28)	(+20)	(+5)	(+13)	(-8)	
機械機器	3,089	3,520	3,399	1,090	1,437	
	(+36)	(+34)	(+36)	(+37)	(+35)	
(船舶を除く)	2,619	3,000	2,813	964	1,139	
	(+31)	(+36)	(+40)	(+49)	(+36)	
事務用機器	96	113	102	35	41	
	(+5)	(+13)	(+19)	(+19)	(+20)	
テレビ	154	122	124	44	46	
	(+30)	(+13)	(+27)	(+53)	(+11)	
ラジオ	222	235	199	69	78	
	(+13)	(+21)	(+31)	(+32)	(+28)	
自動車	599	782	731	235	293	
	(+66)	(+91)	(+67)	(+84)	(+63)	
二輪自動車	136	199	216	74	91	
	(+66)	(+56)	(+62)	(+66)	(+70)	
船舶	470	519	586	126	297	
	(+69)	(+23)	(+20)	(-16)	(-29)	
光学機器	150	166	158	57	63	
	(+12)	(+22)	(+35)	(+44)	(+28)	
レコーダー	137	146	128	44	51	
	(+9)	(+14)	(+36)	(+40)	(+31)	
その他	618	582	492	173	200	
	(+15)	(+14)	(+6)	(+8)	(+3)	
合計	6,330	6,802	6,164	2,047	2,552	
	(+26)	(+24)	(+22)	(+24)	(+19)	
(船舶を除く)	5,860	6,283	5,578	1,921	2,255	
	(+23)	(+24)	(+22)	(+28)	(+18)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

## 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	46年		47年		47年	
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	
食料品	664	860	798	244	319	
	(-1)	(+19)	(+13)	(+6)	(+29)	
肉類	54	80	61	21	21	
	(+31)	(+100)	(+142)	(+160)	(+187)	
魚介類	93	159	120	37	40	
	(+36)	(+89)	(+74)	(+105)	(+62)	
小麦	61	113	73	16	30	
	(-34)	(+44)	(-19)	(-38)	(-13)	
とうもろこし	59	62	62	20	23	
	(-7)	(-21)	(-5)	(-13)	(-24)	
砂糖	65	69	96	44	28	
	(-14)	(-20)	(+3)	(+25)	(-3)	
原燃料	2,669	2,827	2,981	978	1,033	
	(-1)	(0)	(+7)	(+14)	(+4)	
羊毛	68	68	88	27	34	
	(-25)	(0)	(+33)	(+22)	(+70)	
綿花	114	122	170	59	60	
	(+3)	(+3)	(+27)	(+39)	(+11)	
鉄鉱石	328	331	310	93	99	
	(+6)	(+1)	(-2)	(+2)	(-16)	
鉄鋼くず	26	24	22	3	10	
	(-76)	(-63)	(-49)	(-61)	(-29)	
非鉄金属鉱	270	231	217	76	69	
	(0)	(-13)	(-12)	(+6)	(-16)	
大豆	97	123	111	39	33	
	(+11)	(+19)	(+2)	(+8)	(-11)	
木材	306	384	363	120	117	
	(-27)	(-11)	(-6)	(-8)	(-13)	
石炭	246	223	248	78	94	
	(-11)	(-25)	(-9)	(-6)	(-4)	
原油	780	830	921	314	327	
	(+44)	(+34)	(+35)	(+47)	(+31)	
化学製品	229	277	266	90	96	
	(-9)	(+8)	(+8)	(+11)	(+15)	
機械機器	516	590	725	222	325	
	(-7)	(0)	(+13)	(-7)	(+43)	
航空機	54	65	168	17	133	
	(+34)	(+172)	(+101)	(-63)	(+474)	
鉄鋼	23	26	26	10	7	
	(-70)	(-41)	(-34)	(-6)	(-38)	
非鉄金属	189	172	191	61	77	
	(-21)	(-17)	(+17)	(+13)	(+41)	
その他	378	419	430	143	153	
	(+13)	(+27)	(+45)	(+50)	(+45)	
合計	4,667	5,170	5,417	1,747	2,011	
	(-3)	(+4)	(+11)	(+11)	(+17)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

対し、欧州向けは堅調に推移した。

3月の輸入は、季節調整後前月比で+9.0%(前年同月比+13.9%)の大幅増加となった。

これは、航空機の入着集中等の特殊要因もかなり響いているものの、こうした要因を調整してみても、このところ輸入にはやや回復傾向がうかがわれる。これは、鉄鋼原材料、設備投資関連の機械機器等の輸入は依然低迷を続けているものの、消費財、繊維原料等が増勢を強めているためである。

3月の輸入承認額は、季節調整後前月比では+0.8%(前年同月比+13.8%)の小幅増加にとどまったが、1～3月通計では、+7.1%とかなりの伸びとなった。これは、肉類、酪農品を中心とした食料品、繊維原料ならびに繊維製品をはじめとした製品類(機械を除く)の好伸びによるものであり、鉄鋼原材料等は依然として不振のまま推移している。

2月の輸入素原材料在庫(季節調整後)は、前月比+0.6%と増加したが、同消費が+0.7%となったため、在庫率は113.3(前月113.5、40年=100)とわずかながら低下した。

46年度の国際収支は、総合で8,043百万ドルの黒字と前年度(同1,999百万ドル)に比べ約60億ドル黒字幅を拡大した。これは、輸出が前年度に引き続き高い伸び(+25%)を示した一方、輸入が景気停滞を映じて小幅の増加(+6%)にとどまったため、貿易収支の黒字が8,552百万ドルと前年度(同4,455百万ドル)比倍増したことに加え、多額の輸出前受金の流入により短期資本収支も黒字幅を拡大した(黒字額3,099百万ドル、前年度670百万ドル)ことによる。

輸出入の内訳をみると、輸出については、品目別には合繊糸、テレビ、自動車、オートバイ、船舶が著伸し、また地域別には、北米向け、アフリカ向けなどが大幅に増加したのが目だつ。輸入では、肉・魚介類、遊戯用具、原油、航空機等はかなりの増加を示したものの、その他は原材料を中心に低調であった。

この間、貿易外収支は輸出の増加と輸入の停滞に基づく運輸収支の改善を主因に、小幅ながら赤字幅の縮小をみた(赤字額1,767百万ドル、前年度同1,861百万ドル)。

長期資本収支は、外国資本が前年度に引き続き外国投資家の対日証券投資を中心にかなりの流入超となったものの、本邦資本が、対外証券投資の増加などから流出超幅を拡大したため前年度を上回る赤字(1,708百万ドル、前年度1,347百万ドル)となった。

金融勘定では、為替銀行の対外ポジションは輸出金融における外貨シフト(外為資金貸付による金融から外貨金融への振替え)などを映じて海外短資取入れや外銀借入れが著増したほか、期限付輸出の一覽払輸出への切替えの動きに伴い買持輸出手形が減少したことを主因に、2,600百万ドル悪化し、一方、外貨準備は11,205百万ドルの著増を示した。

#### 46年度中の国際収支状況

(単位・百万ドル、カッコ内は前年度比増加率・%)

	46年度(A)	45年度(B)	前年度比 (A-B)
経常収支	6,463	2,365	4,098
貿易収支	8,552	4,455	4,097
輸出	24,758 (+ 25)	19,865 (+ 21)	4,893
輸入	16,206 (+ 6)	15,410 (+ 21)	796
貿易外収支	△ 1,767	△ 1,861	94
(うち運輸収支)	△ 840	△ 1,166	326
移転収支	△ 322	△ 229	△ 93
長期資本収支	△ 1,708	△ 1,347	△ 361
本邦資本	△ 2,486	△ 2,010	△ 476
(うち延払信用)	△ 875	△ 817	△ 58
外国資本	778	663	115
(うち証券投資)	599	489	110
(基礎的収支)	4,755	1,018	3,737
短期資本収支	3,099	670	2,429
誤差脱漏	189	311	△ 122
総合収支	8,043	1,999	6,044
金融勘定	8,043	1,999	6,044
為銀部門	△ 2,600	471	△ 3,071
公的部門	10,643	1,528	9,115
外貨準備増減	11,205	1,590	9,615